

第 11 講 プラグマティズムの黎明期—形而上学クラブ～パースの生涯と思想

1 19 世紀の思潮

1870 年代、マサチューセッツ州、ケンブリッジで、隔週で開かれた、青年研究者による会合が起源。

会合の場所は、チャールズ・パースの書斎、ウィリアム・ジェームズの書斎。

会合の名前は、「形而上学クラブ」

背景

コンコード・サークル

超越的哲学 個人主義的自然観と人生観

エマソン (エマソン)、ソロー、オルコットほか

19 世紀的悪夢について

マーク・トウェイン(Mark Twain, 1835-1910)の晩年

『トム・ソーヤの冒険』(1876) 『ハックルベリー・フィンの冒険』(1885)

これらは明るく、開放的な冒険物語、生きることに能動的、人生の礼賛

しかし、1890 年以降、暗くなる。決定論的なペシミズムに陥る。

マーク・トウェイン『人間とは何か』(1906 年) より。

2 C.S.パース(Charles Sanders Peirce, 1839-1914)

(1) 生涯 (2) 思想

プラグマティズムの提唱とその意味

ギリシア語 pragma(pragmata)「行なわれた事柄」「行為」を意味する。

パースは、カントの用語からインスパイアされて、この語を使用し始めた。

カント『純粋理性批判』(1781 年)

超越論的方法 私たちの行為を規定する実践的な法則 (プラクティッシュな法則)

実用的な法則 (プラグマティッシュ)

道徳的な法則 (モラーリッシュ) の二つがある。

解釈項 interpretant の種類と働き

三つの種類

(1) 直接的解釈項 immediate interpretant

(2) 動的解釈項 dynamical interpretant

(3) 最終的解釈項 final interpretant

最終的に決定することができる解釈項。

記号が生み出す効果が、記号使用者のなかでどのようなかたちをとるかという側面からの

分類 情緒的解釈項 emotional interpretant 努力的解釈項 energetic interpretant

論理的解釈項 logical interpretant

3 ウィリアム・ジェームズの思想と生涯

4 ジョン・デューイの思想と生涯